

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	浜田保健所	氏名	樋野 紗由里
派遣先 団体名	NPO法人ちゃいるどりーむ		
<p>NPO法人ちゃいるどりーむは、子育てサポートセンターの運営をより充実したものにするために立ち上げられました。長年かけて築いた人と人のつながりや信頼関係を活かしながら、熱意のある職員の皆さんが一丸となって地域の子育て支援に励んでおられます。</p> <p>今回の研修では、江津市立津宮小学校における「赤ちゃん登校日」授業の手伝いを通して、ちゃいるどりーむの活動について学びました。</p> <p>【研修の日時・内容】</p> <p>○事業概要等のレクチャー・赤ちゃん登校日準備（9月8日）</p> <p>NPO法人ちゃいるどりーむの事業概要や、今回の研修で参加する「赤ちゃん登校日」授業について、佐々木理事長にお話を聞きました。その他、赤ちゃん登校日用の備品などの準備をしました。</p> <p>○事前授業（9月9日）</p> <p>赤ちゃん登校日授業を受ける児童が、実際に赤ちゃんとお対面する前にマナーやコミュニケーションについて学ぶ授業です。この事前授業から赤ちゃん登校日の授業は始まっていて、津宮小学校の5年生たちが真剣な表情で高塚先生（鳥取大学准教授・赤ちゃん登校日授業の発案者）と向き合っていました。この日は授業のための会場準備や参観者受付などをしました。</p>  <p>○第1～3回かかわり体験授業（9月10日、10月10日、11月6日）</p> <p>児童たちと赤ちゃん親子は1か月おきに合計3回の授業を通してかかわります。会場となった体育館の床には柔らかいマットを引き、ゴミを掃除してからアルコールで拭きあげるという念入りな準備に感心しながらも、赤ちゃんを迎えると思うとこちらも気が引き締まりました。</p> <p>3回とも主に会場準備、参加者親子の受付、そして片付けをしましたが、何よりも授業が興味深くて、回を重ねるごとに児童たちがどう変化していくのか、夢中になって様子を見守っていました。</p>			



【研修の感想】

○赤ちゃん登校日授業について

研修において、赤ちゃん登校日授業に運営側という立場で参加するという、とても貴重な体験をさせてもらいました。赤ちゃん登校日授業については、参加どころか見聞きすることも初めてだったので、児童だけでなく、赤ちゃんのお父さんお母さん、参観者にとっても勉強になる“コミュニケーション”の授業だということは意外でした。

全4回の授業を終えて感じたのは、いくつもの相乗効果を生む授業だということです。

高塚先生の授業は参観者を含めた会場内の全員に語りかける内容で、挨拶の基本（語先後礼）や、お互いが気持ちよく過ごすために相手に関心を持つこと、そばにいる人の方を向いて話を聴くことなど、当たり前のように出来ていないことを改めて考えさせられました。

児童たちは学んだマナーを赤ちゃん親子の前で実践します。赤ちゃんという存在を前にすることで次第に表情が緩んでいく様子を見ながら、赤ちゃんのお母さんやお父さんの表情もさらに明るくなっていきました。



赤ちゃんとお母さんにとっても、児童たちに赤ちゃんのことを話したり、赤ちゃんを可愛がってもらったりすることで、さらに自分の子を愛おしく感じるそうです。授業を振り返るアンケートでは、参加して良かった、自分の子どもも大きくなったら赤ちゃん登校日授業を受けさせたい、という声が多くありました。

そして、授業の開催のために、学校と子育てサポートセンターだけではなく、市役所、ボランティアのサポーターさん、学校のPTAなど、様々な立場の人が関わっていることにも大きな意味を感じました。参観に来る保護者も多く、子育てという身近な課題に、地域が一体となって向かっているという印象を持ちました。

また、各授業後には運営側の反省会に同席させてもらいました。日頃から児童たちを見ている担任の先生からの感想や、多くの児童たちを見てきた高塚先生とちゃいるどりーむの職員さんからの感想は、それぞれに別の視点からではあるものの、子育てへの熱意を感じるものでした。授業を見て、「ああ素晴らしい授業だったな」で終わるのではなく、反省会で皆さんの思いが聞けたおかげで、それを踏まえてまた次の授業を見て考える、というとても有意義な時間を過ごせました。

○ちゃいるどりーむの活動について

江津市子育てサポートセンターの事業は、かつては市役所職員が担っていた業務だったそうです。しかし、子育て支援という長期的な課題に取り組むためには、時間をかけて築く信頼関係と経験が必要で、人事異動を伴う市役所ではどうしても難しい面があり、ちゃいるどりーむが立ち上がったそうです。そのような経緯もあって、今回の赤ちゃん登校日授業においても、行政との連携がとてもよく取れているように感じました。

普段の活動としては、子育て相談を受けたり、親子で参加できる行事を開いたり、子育て支援連絡会を実施して地区ごとの情報を共有したりしておられます。

事業のひとつにファミリーサポート事業というものがあり、仕事などの都合で子どもを預かって欲しい人と、預かってくれる人に会員登録をしてもらい、ちゃいるどりーむが橋渡しをします。こういった事業では特に、ちゃいるどりーむが媒介することが安心や信頼を強めているのではないのでしょうか。昔に比べて近所付き合いの軽薄化が進む中、顔を合わせることの少ない地域の人同士が、子育て支援事業をきっかけに長く関係が続いていく例も多くあるそうです。

日頃から地域に密着した活動で人と人の繋がりを大切にしているちゃいるどりーむだからこそ、赤ちゃん登校日授業などの事業で様々な立場の人を巻き込んでの開催が実現しているのだと思いました。

【最後に】

お忙しい中で研修を受け入れてくださり、子育ての現状や問題意識を教えてくださいました。ちゃいるどりーむ職員の皆さまと、研修の機会を与えていただいたことに感謝しています。普段の業務では縁の無い“子育て”について、育ててもらった自分、いつか育てる側になるかもしれない自分、そして行政的な視点からも、じっくり考えることができました。様々な面で学びと気づきのある研修先ですので、今後も多くの方に体験してもらいたいです。